#61

オキナワチドリ

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

Amitostigma lepidum

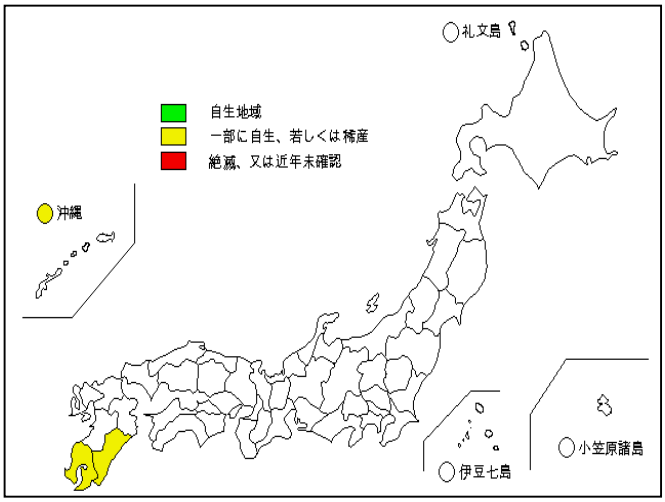
オキナワチドリ(愛知県栽培品　10.4/17)

宮崎県以南の海岸部や明るい草原、岸壁などに自生する小型の地生蘭です。モジズリの葉を広くしたような2枚葉で、現地では2～3月に10cm程度の花茎を伸ばし1～5輪程度の薄紅色でスポットが入る花を咲かせます。(本州平野部で栽培した場合は4月頃に開花します)

自生地域は暖地に限られますが、非常に強健で民家の芝生などにも群落を作り、沖縄版のモジズリ(ネジバナ)のような存在です。

花はイワチドリに似ており、1輪は比較的大きく見応えがあるため観賞価値の高い蘭です。

平野部の草原に自生することから開発の犠牲が一番の減少原因ですが、本種は上記の通り強健で道路脇や岸壁にもたくましく自生することからも、ラン科の中では比較的絶滅の危険性が少ない蘭です。



沖縄地方の海岸部に自生します。

オキナワチドリの草姿(愛知県栽培品　10.4/17)

花は1輪当たり2週間程度ど比較的長持ちし、それが次々に開花して行く為totalで2ヶ月ほども楽しめます。

自然下ではしばしば雑草扱いされるほどのたくましさですが、ヒナラン属らしい花で大変美しく、育てる楽しみ、見る楽しみ、増やす楽しみと野生蘭栽培の醍醐味を全て気軽に味わえる為、ぜひおススメする野生蘭です。

本種については商用生産も盛んに行われており、購入が自生地減少に対する負荷にはなりえませんのでご安心下さい。比較的地味でマニアックな蘭なのでそこまで入荷量は多くありませんが、花やさんでもしばしば花が終わって売れ残り廃棄されているような現状です。こんな株を見かけたらぜひ値切って引き取って、平鉢に群生をつくって楽しんでください。

Document and photo by LittleFlower 2010

商用生産も盛んに行われている為入手は容易です。但しそこまでの売れ行き商品ではないため花やさんでの入荷量はそこまで多くはありません。
栽培・増殖も容易です。冬の霜だけ気をつければ手間をかけずとも元気に育ちます。日照が大好きなので、ガンガン日に当ててガンガン水をやってください。大き目の平鉢に植えれて鉢いっぱいに増やして豪華に咲かせることをおススメいたします。
伊豆や和歌山、四国南部や鹿児島以南などの暖地にお住まいであれば、庭の芝生の隅にでも植えてやると野趣あふれる姿で栽培することが出来ます。
増殖も容易です。地下ランナーで増えて行く為、条件さえ合えば自然に増えて行きます。実生による増殖も比較的容易ですが、株繁殖の勢いが強い為あまり行われません。

オキナワチドリ（愛知県栽培品　10.4/17）

販売風景。増殖株がこんなトレー売りをされています。

本種はヒナラン属に帰します。ヒナランは渓流沿いの水の滴るような冷涼な岸壁に自生します。イワチドリも同様の環境を好みます。コアニチドリは多雪地帯の岸壁や湿原に自生します。オキナワチドリに比べるとこれらは何れも生育環境が限られ、希少価値、観賞価値共に高いため盗掘により徹底的に自生地が減少しており、かつダムや道路開発などの犠牲にもなりやすく、各自生地で絶滅の危機に瀕しています。

オキナワチドリの葉（愛知県栽培品　10.4/17）

オキナワチドリ（愛知県栽培品　10.4/17）